

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4-2  
管理機関名 愛媛県教育委員会  
代表者名 教育長 田所 竜二

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日(契約締結日)～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立松山東高等学校

学校長名 和田 真志

類型 グローカル型

3 研究開発名

東高がんばっていきましょいーグローバルからグローカルへの挑戦ー

4 研究開発概要

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究(以下「地域課題研究」)を中心とした教育課程の研究開発

(1) グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローカル明教】

本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力のもと協働的研究を行い、資質・能力を伸ばす。

(2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けた語学力を育成する実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。

イ 内容言語統合型学習(East CLIL)を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

(3) 学校環境のグローバル化

ア SGH部の活用

イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進

ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

- エ 県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流
- オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携
- カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成
- (4) S G Hで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築
  - ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓
  - イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築
  - ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催
  - エ 「中四国S G H高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催
  - オ 他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

○適用範囲：第1学年全生徒

教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位）

○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース

教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位）

「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
井上 敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター センター長	委員長
佐伯三麻子	松山東雲女子大学 教授	副委員長
金村 俊治	坊っちゃん劇場 支配人	
菅 紀子	(有)クラパムコモンカンパニー 代表	
寺村 尚起	三浦教育振興財団 監事	
近藤 実	松山南高等学校 校長	
高岡 伸夫	松山市総合政策部 地方創生戦略推進官	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機関の代表者	
松山市教育委員会生涯学習政策課	課 長	西村 秀典
松山市総合政策部企画戦略課	課 長	田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長	徐 祝旗
松山大学人文学部	学部長	櫻井啓一郎
いよぎん地域経済研究センター	社 長	重松 栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員	山本 司
常盤同郷会	理事長	山崎 薫
愛媛県社会福祉事業団	前理事長	仙波 隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課 長	島瀬 省吾
愛媛県立松山東高等学校	校 長	和田 真志

8 カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	非常勤職員
地域協働学習実施支援員	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	非常勤職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム				○								○
カリキュラム開発等専門家							○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会				○								○

(2) 実績の説明

ア カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

(ア) カリキュラム開発等専門家

梶原 春菜：非常勤職員として雇用、月4回本校で勤務。

（元京都大学法学研究科助教、5年間の本校SGH特別非常勤講師、昨年度1月より海外交流アドバイザーとして勤務）

(イ) 地域協働学習実施支援員

嶋村 美和：非常勤職員として雇用、月5回本校で勤務。

（元京都大学東南アジア研究所研究員、5年間の本校SGH特別非常勤講師「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当）

イ 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(ア) 職員体制に関する支援

海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置、GL担当教員のための教員の加配（常勤講師1人）、（外国語指導助手専任）の配置（1人）

(イ) 取組内容に関する支援

ALTの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）、生徒のディベート力の向上支援（英語ディベートコンテスト開催事業費）、生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）※今年度は中止、研究に係る費用を優先して令達

(ウ) 関係機関との連絡調整等

高大連携プログラム等を円滑に実施するための大学及び企業等との連携支援、海外FWにおける現地との交渉の支援

(エ) 運営に関する支援

運営指導委員会の開催年2回実施（7月17日、3月4日）、コンソーシアムの開催年2回実施（7月17日、3月4日）、えひめスーパーハイスクールコンソーシアムの開催（発表と意見交換）

(オ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

コンソーシアムの継続、海外交流の支援、教職員への支援などを行う。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア グローカル明教		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ 坊っちゃんタイム		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ 学校環境のグローバル化		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ コンソーシアムの構築		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

### (2) 実績の説明 ※第1学年全生徒：360人 第2学年G Lコース生：80人

#### ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

##### (ア) グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】

##### a グローカル明教Ⅰ 対象：第1学年全生徒

##### (a) アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、秋山兄弟生誕地等の史跡でフィールドワークをするなど、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

- ・講演「これからのよのなかの話をしよう」

【変更】緊急事態宣言等による休校措置及び分散登校実施のために、市内FW（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）は中止。

##### (b) アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導のもと、いよぎん地域経済研究センターの協力により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について探究学習を行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを交えて実施し、フィールドワーク報告会により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。さらに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有する。

【内容】講演及びフィールドワーク

- ・講演「企業の見方&地域製品のマーケティング」
- ・県内企業フィールドワーク代替講演（三浦工業、アテックス）
- ・海外フィールドワーク代替交流（台湾三浦工業、台湾国立中興大学附属高級中学、三浦工業（中国）、北京月壇中学、フィリピン大学附属高校）

【変更】新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演会はすべてオンラインで実施。また、県内企業フィールドワーク及び海外フィールドワークは中止とし、オンラインでの講演や交流会を代替として実施。

##### b グローカル明教Ⅱ 地域及び世界の持続的な発展のために 対象：第1学年全生徒

【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローバル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。

【内容】講演及び課題研究、発表会

- ・「地域社会の持続可能な発展に向けてー今、なぜグローバル人材が求められるのかー」「世界共通のゴール『SDGs』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」
- ・「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま まちかど講座」
- ・課題研究 20テーマ 24時間実施 本校教員が指導 研究成果発表会（3月）

c グローカル明教Ⅲ グローカル課題への取組 対象：第2学年GLコース生対象

【目的】 高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためグローバルコースを設定し、課題研究の深化を図る。地方創生のための課題研究を通して、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。

【内容】 個人及びグループによる課題研究、発表会

・課題研究 13テーマ 48時間実施

講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学准教授

・発表会 1・2年合同中間報告会（12月）及び研究成果発表会（3月）

(イ) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

第1学年は全生徒を対象とし、各学期2科目（各1テーマ）で実施、全6テーマ

第2学年は、GLコース生のみを対象とする予定であったが、英語科でオンライン英会話の取組を行うこともあり、全生徒を対象に行った。オンライン英会話の設定されたテーマに基づいて、関連した内容を英字新聞やインターネット上の動画などから教材化して行った。

(ウ) 学校環境のグローバル化

a S G H部の活動 ※部員 39人

グローバル・リーダーとしての資質・能力の伸長の加速化を目標とし、校内啓発活動、国際協力・交流活動に取り組み、その成果を様々な機会に報告している。

(a) 校内啓発活動

インターナショナルデー（国際交流）、市内高校生交流会・勉強会（SDGs勉強会）、NGOえひめグローバルネットワークとのフェアトレードの啓発活動

(b) 国際協力・国際交流活動

アメリカトリーパインズ高校とのオンライン交流、ハワイHBA高校とのオンライン交流、ビデオレターの制作（ウガンダ・シンガポール・台湾・フィリピン・アメリカ・中国）

(c) 対外的コンテスト・大会への参加

全国教育模擬国連大会・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会・「えひめ教育の日」推進大会・「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」・「ロシア日本語履修高校生オンライン交流プログラム」他

b その他の取組

(a) 海外修学旅行等による体験型研修促進

本年度も、アメリカ（ロサンゼルス）及び、シンガポール・マレーシアの修学旅行を計画し、約2/3の生徒が在学中に海外を体験できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止となった。台湾・中国・フィリピンへのフィールドワークも中止となり、代替活動としてオンライン交流を行った。オーストラリアでの語学研修も中止としたが、新たにオンラインでの語学研修を宇和島南中等教育学校と協力して3月に実施した。

（Flinders UniversityのIELIが提供する語学研修を1・2年生の希望者20人が受講）

(b) 留学生の受入れおよび留学の促進

本年度はアジア高校生架け橋事業による留学生を1名と一般の留学生1名を

引き受けた。また、来年度に向けて、本校生の留学の促進のために「トビタテ！留学 J A P A N」の説明会を実施した。

(c) 海外高校生との交流

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため本校に迎えることができなかったが、課題研究やフィールドワークの代替活動や部活動でオンラインを使ってたくさんの海外高校生との交流を実施することができた。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 第1学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

松山市シティープロモーション課による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま まちかど講座」を利用した各政策担当者による講義、地域活性化に取り組んでいる愛媛大学や学習院大学の教授や元地域まちおこし協力隊員からの講演。

(イ) 第2学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課の職員、元大学准教授の指導による探究的な活動である課題研究を実施。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

第1学年でのグローバル明教の課題研究においては、本年度から本校教員が課題研究テーマを設定し、その中から生徒がグループでテーマを決定し課題研究に取り組んでいる。全教科の教員が参加することによって、それぞれの得意の分野と地域課題を連携させながら課題研究に取り組んでいる。

また、E a s t C L I Lでは、英語科と各教科が連携し、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図っている。

エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラムの作成については、本校の校務分掌では、グローバル事業課（以下G L事業課）と教務課において作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会を年3回開催し、内容を検討しながら運営している。

オ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付け）

全校体制で本事業は推進するが、中心となって本事業を運営する校務分掌として、G L事業課を設置している。本課に所属する教員は、計画立案、本事業の円滑な実施、考察、事業計画の改善を図っている。課題研究は、課題研究チームをつくり、G L事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員が協働して活動し、学年団が担当する課題研究の外部機関との連絡・交渉、研究内容についての支援を行っている。また、海外交流事業は、海外交流チームをつくり、G L事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家が協働して、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、英語科と協働して行う海外留学の促進事業や留学生受入事業を行っている。

カ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業におけるそれぞれの内容については、G L事業担当者が具体的な案を立案し、校長決裁を受けたものを、職員会議にて全教職員で共通理解を図りながら推進している。成

果の検証・評価については、以下のように行っている。講演については、その都度生徒へのアンケートを行い、内容についての検討と次年度の内容の検討を行う。課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行うとともに、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図る。

#### キ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成を目指して、コンソーシアムの産官学それぞれの立場からの指導助言を受けている。松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺うことで、生徒への意識付けに繋がっている。本年度は、新たに松山市主催で「未来のふる里産業人養成講座」を実施し、本校OBの方や産業界で活躍されている方による講演により、新たな知見を得ることができた。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローバルなのか」や「今なぜSDGsなのか」などの根本的な知識や理論を学ぶことで、生徒の思考力や判断力の向上に繋がっている。さらに、各企業からはグローバルに対する取組や、社会貢献の在り方について学ぶ機会を得ている。

#### ク 類型毎の趣旨に応じた取組について

本校指定のグローバル型においては、グローバルな視点の育成と郷土の課題の解決に貢献できる人材の育成を目指している。

グローバルな視点の育成のために企画していた多くの内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止となった。しかし、その中で駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」を昨年度に引き続き実施した。また、海外フィールドワーク参加予定者には、現地企業や交流予定校とのオンラインでの交流を行った。さらに、ほぼ毎月実施しているSGH部主催のインターナショナルデーには、県内在住の留学生や外国人を招いて交流を行うなど、グローバルな視点の育成に努めることができた。

また、郷土の課題解決に向けては、本年度も松山市の全面的な協力をいただいた。総合政策課を中心に、探究的な学習における講演や講座の開設、課題研究における講師派遣を受けた。来年度は、松山市選挙管理委員会からの講師派遣も決定した。愛媛大学や松山大学との連携についても、昨年度までと同様に課題研究での指導や講演などに協力を得ることができ、生徒の高いレベルでの知的好奇心を喚起することに繋げることができている。

#### ケ 成果の普及方法・実績について

本年度の活動内容については、適宜本校ホームページで発信している。12月には1・2年生合同中間報告会を実施し、課題研究指導者及び本校生徒保護者のみではあっても公開した。また、3月には本校で研究成果発表会を、参加者を県内中高関係者に増やして公開して実施した。さらに、愛媛県教育委員会が主催する「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」で活動内容をオンラインで報告した。

SGH部が主催して昨年から行っている市内高校生会議を本年度からは、定期的に開催し、市内高校生に成果の普及を図っている。

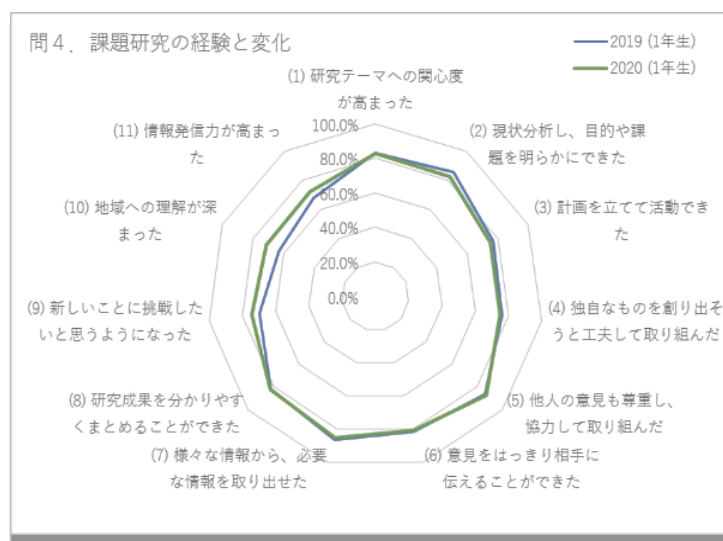
### 11 目標の進捗状況、成果、評価

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初の計画通りには実施できなかったものの、オンラインでの取組と、各関係機関が臨機応変に対応してくださったことにより、多くの事業を実施することができた。

1年生では、コンソーシアムの一員である愛媛大学や松山市の協力のもと、講演会や講座を実施し、グローバルな視点の育成や地域理解に繋げる取組を行った。それにより、思考力や判

断力の育成及び、地域や世界の現状や課題について理解を深めることができ、昨年と同様に生徒の自己評価は高くなっている。県内企業フィールドワークや海外フィールドワークは中止となったが、オンラインによる代替の講演や交流を行った。地元企業のグローバル化への取組と地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学んだり、現地の高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行ったりすることで、語学力、コミュニケーション力の必要性などを学ぶことができた。7月から実施している課題研究では、本事業終了後の持続性を考え、本校教員の主導による研究活動を行っている。各教員の得意な分野を生かしながら、生徒の幅広い興味・関心に対応できるテーマを設定し実施することができた。指導体制の変更にも関わらず、各教員の工夫と協力により、生徒たちは意欲的に課題研究を行うことができた。これは、1年間の課題研究実施後の生徒の興味や関心から確認できる。下図は、今年度の1年生と昨年度の1年生のアンケート結果を比較したものである。

課題研究活動を通じた成果として、今年度の1年生は、情報の収集・分析力(2)(7)、成果の表現力(4)(8)、協働による研究活動の実行力(5)(6)を挙げる割合が高く、昨年度の1年生と同程度の水準であった。さらに、地域への理解(10)や、新しいことに挑戦したいという意欲(9)は、昨年度の割合を上回る結果となっている。このように、本校教員によって行われた課題研究は事業目的に照らして想定以上の成果を生み出しており、本事業終了後を見据えた課題研究の持続的な指導体制の構築が可能になってきている。



2年生では、GLコースを設定し、研究意欲の高い生徒80名を対象に、高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を実施することにより、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課題発見力や問題解決能力・コミュニケーション力等の育成を図ることができた。GLコース生3名が自主的に取り組んだ観光甲子園2020では、訪日観光部門で準グランプリを受賞した。これは、G明教で取り組んだSDGsの内容を取り込んだものであり、課題研究の取組が作品づくりにも大きく貢献しており、学習内容が定着してきている。

昨年度は休校措置により発表会を実施できなかったが、感染防止策をした上で、12月に2年生GLコース中心のポスター発表による報告会を、3月には1年生によるポスター発表、2年生によるシンポジウムを公開で開催することができた。ポスター作成やプレゼンテーション作成を通じた学びに加えて、ディスカッションによる学びを得た生徒が多く、思考力や表現力を含めたプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上につながっており、実施の意義は大きかった。

学校環境のグローバル化においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、昨年度のような交流の機会は確保できなかったものの、SGH部を中心にしてオンラインでの交流や県内留学生を招待しての交流など、限られた条件の中で可能な取組を積極的に行った。昨年度から実施している市内高校生会議は、参加校、参加人数ともに増加し、ともに研究・協議していく仲間作りができており、本校の取組の普及にもつながっている。

昨年度の課題であったコンソーシアムとの協働体制は、松山市との連携講座の開設や、講演



会の講師の斡旋、来年度2年生の課題研究講師協力など、より強固なネットワークの構築に繋げることができた。

<添付資料>目標設定シート

## 12 次年度以降の課題及び改善点

本年度から事業終了後の継続も考え、1年生の課題研究について本校教員が指導を行ってきた。課題研究チームが研究の流れについて道筋を示し、運営は各担当教員が自由に実施できるようにしたため、幅広いテーマでの課題研究が実施できた。しかし、フィールドワークや外部講師を積極的に活用した講座がある一方で、調べ学習に終わった講座もあるなど、取組での差が見られた。GL事業課としての情報提供が十分ではなかったため、各講座で行われた内容を分析し、より良い課題研究ができるように、地域協働学習実施支援員と協力して運営方法を改善していく。また、第2回コンソーシアムで指摘された研究内容の発展的な積み上げを目指して、3年生が2年生を指導するシステムも検討していく。

2年生のGLコースは、本年度80名の定員を設けて実施した。生徒の学習意欲や知的好奇心も高く、GLコースを希望する生徒が多いため、来年度の2年生のGLコースは、コンソーシアムの協力による新たな講座の開設によって、定員を97名まで増やすことができた。しかし、すべての希望者には対応できておらず、事業終了後を見据えては、希望者全員が受講できるような体制づくりを検討していく。そのためには、外部講師にとって負担感の大きい論文作成についての方法を改善していく。

3年生は、論文作成となるが、研究内容を外部に発信することと、生徒一人一人の進路実現に繋げていく取組をしていく。また、3年生と2年生が一部同じ時間で活動するため、3年生が2年生に対して指導できる方法について模索していき、継続した研究ができるような仕組み作りを行っていく。

学校環境のグローバル化について、本年度は海外フィールドワークや現地での語学研修などが実施できなかった。生徒の感想にも、「現地を訪問して交流をしたかった」というものが多かった。SGH事業より取り組んできた海外研修を今後も継続できるように、時期や内容を検討し、可能な限り実施できるように努めていく。また、本年度と状況が変わらない場合には、本年度以上にオンラインを有効に活用し、事前や事後学習を含めて効果が上がるように研究を重ねていく。

本校では、SGH事業指定中に、同窓会が中心となり「松山東高校グローバル人材育成振興会」が結成され、海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への助成、学会や研究会で発表する生徒等への助成、講演会等実施時の講師旅費・謝金、課題研究に必要な書籍等の購入、教育活動に役立つICT機器の整備等において支援を受けている。SGH事業から本事業まで、カリキュラムとしては成熟し、事業が円滑に進んでおり、これらの事業で培ってきたものを継続するためには、活動費の確保は急務である。管理機関である愛媛県の支援をお願いするのはもちろんのこと、本校独自の振興会からの今まで以上の支援が必要になる。そのためには、本校が現在行っている様々な取組について、ホームページ上や新聞・TV等だけではなく、SNS等を通じて情報発信を行う体制づくりを行っていき、本事業終了後も本取組を継続して実施できるような活動費の確保に努めていく必要がある。

### 【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	089-912-2954
氏名	近藤 啓司	FAX	089-912-2949
職名	指導主事	e-mail	kondou-keiji@pref.ehime.lg.jp

ふりがな	えひめけんりつまつやまひがしこうどうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	愛媛県立松山東高等学校		

### 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
地元が抱える問題や魅力を理解し、自分の言葉で語るができる生徒の割合						単位: % (2021年度)
a			46	53		75
本事業対象生徒以外:						
		8	26	36		50
目標設定の考え方:2018年度は8%であった。事業対象生徒について、2021年度に75%に到達できるよう、コンソーシアム間での連携強化に努め、事業計画の改善を図りながら、段階的に割合を増やすこととする。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
将来地元で就職したい、または、地元で起業したいと希望する生徒の割合						単位: % (2021年度)
b			35	39		40
本事業対象生徒以外:						
		16	19	33		30
目標設定の考え方:2018年度は16%であった。事業対象生徒について、2021年度に40%に到達できるよう、コンソーシアム間での連携強化に努め、事業計画の改善を図りながら、段階的に割合を増やすこととする。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
将来、国内外どこで暮らしても、地元の発展や課題解決に貢献したいと考える生徒の割合						単位: % (2021年度)
c			53	63		75
本事業対象生徒以外:						
		35	22	49		50
目標設定の考え方:グローバルな視点を持ち、地元の課題解決に貢献する人材を育む教育活動を展開する結果として、将来、国内外どこで暮らしても地元の発展や課題解決に貢献したいと考える生徒の割合75%を目指す。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
将来留学や海外の大学へ進学したいと考える生徒の割合						単位: % (2021年度)
d			34	34		75
本事業対象生徒以外:						
		32	21	25		50
目標設定の考え方:地元の魅力発信や協働の在り方について学ぶため、海外に学習機会を求めるとも大切だと考える。将来、留学や海外の大学への進学したいと考える生徒の割合75%を目指す。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
地域の課題解決に取り組み、政策提言する生徒の数						単位: 人 (2021年度)
a			114	59		50
目標設定の考え方:地域課題研究を行った成果として、協働して解決に向かい、政策提言まで行う生徒の数50人を目指す。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
地域課題研究の校外の研究発表会における発表やコンクール・コンテストへの出品者数						単位: 人 (2021年度)
b			60	94		30
目標設定の考え方:校内における発表や審査を経て、愛媛県が主催している愛媛グローバル・フロンティア(EGF)アワード」や松山市まちづくり提案制度(次世代育成支援事業)などのコンクールやコンテストへの出品者数、年間30人を目指す。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合						単位: % (2021年度)
c			50	59		100
目標設定の考え方:生徒の入学時の英語力は、CEFRのA1～A2レベルと思われるが、卒業時には、全員がCEFRのB1～B2に到達することを目指す。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
タウンミーティングや「笑顔のまつやまわがまち工房」への参加者数						単位: 人 (2021年度)
a			361	360		50
目標設定の考え方:本事業では、地域課題に強い関心を持った生徒が、松山市長が参加するタウンミーティングや「笑顔のまつやまわがまち工房」などに参加し、主体的に意見交換などをする力を育成する。これらに自主的に参加する生徒の人数年間50人を目指す。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
本事業の課題研究について、産官学の外部人材が参画した回数(延べ)						単位: 回 (2021年度)
b			357	320		276
目標の考え方:企業20社(延べ)×3人、大学教員20人(延べ)×5回、松山市10人×5回、任意団体5人×5回、コンソーシアム9人×3回、運営指導委員7人×2回						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
本事業における地元マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、CATV等)への発信件数						単位: 回 (2021年度)
c			8	10		10
目標の考え方:生徒の活動が、ニュースとして扱われるような場合には、生徒のモチベーションも上がることが期待できる。地域に貢献したことでマスコミに取り上げられた回数、年間10回を目指す。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	1,070	1,063	1,069	1,068	
本事業対象生徒数			361	440	
本事業対象外生徒数			708	628	